

東京家政大学狭山校舎(稲荷山)



▲サピオ稲荷山で行われた東京家政大学の公開講座
水中で正しいウォーキング方法を学びました

動しています。さらに、これからは児童英語の発展のための活動を広げたいと考えています。心理教育学科では、狭山市と人間市の職員を対象としたカウンセリング講座を予定しているところです。

市長 今後、市では、小・中学校の統廃合を進めていく予定であり、空き教室が増えていくことが考えられます。その場を、再度、学問などにチャレンジしたい人のための学びの場として活用できたら、素晴らしいと考えています。

清水 都内では、すでに空き教室を利用した学びの場を設けている大学があります。そこで学んでい

る方は5万人にもなるのです。ぜひ、実現できたらいいですね。

佐藤 私どもの学園は、昭和56年にこの地へ西武文理高校を設立以降、63年には短期大学を、平成11年には大学を設立し、同15年には小学校を開校しました。大学の特色は、何といってもサービス経営学部でしょうか。当初は、サービスとは学問か、という声も上がりましたが、「ホスピタリティ」をおもてなし学と位置づけ、文科省からの認可を受けた経緯があります。相手に対していかに奉仕できるか、相手にいかに快い気持ちになっただけか……この根幹がホス

ピタリティと考えています。それらの理念を地域にも還元したいと考え、まちづくり公開講座や生活お役立ち講座などの公開講座を積極的に行っていきます。生活お役立ち講座の講師は、すべて、これまでサービス業に携わっていたその道のプロばかりです。毎回、地元の方を中心に50名ほどの参加をいただいています。

学生と地域のつながりとしては、留学生と地域の皆さんとの交流事業をはじめ、地域に根ざした学園祭などがあげられるでしょうか。その中でも、人間小学校5年生の総合的な学習「ビズ・キッズ」への参加協力は、昨年で4回目となりました。「ビズ・キッズ」とは小学生が起業から販売までの本格的な「商売」を体験する学習です。商工会議所の主催で、事前に授業を3回行い、販売当日を迎えますが、その授業の段階から我が校の学生が参加しています。商品の仕入れから、価格の設定、販売方法、サービスのポイントなどに「ヒント」を与え、小学生が自ら考える環境を作りながら支援しています。

市長 ビズ・キッズで見る子ども達のような、実際に生き生きしていると感じました。子どもの中から身に付ける経済感覚や、自ら進んで学ぼうとする姿勢が得られ

▶西武文理大学の「ビズ・キッズ」支援
小学生の興味とやる気を引き出し
よき相談相手に



西武文理大学(柏原)



る非常に大切な授業だと思っています。ご協力に感謝します。では、高橋学長はいかがですか。

高橋 狭山では、昭和56年に武蔵野短期大学を開設し、その後附属幼稚園を、そして平成16年には国際コミュニケーション学部を備え

武蔵野学院大学(上広瀬)



▲地域のコンサートに参加する武蔵野学院大学の手話コーラス
地元の皆さんと交流するいい機会に

た大学を設けました。私どもの学院では、他者理解……相手を頭で理解するだけでなく、心で感じ、体を動かして人と関わる……そんな人間性を持つ学生を社会に送り出したいと考えています。そのために、教育や福祉の分野をはじめとする多彩な資格取得が可能な環境づくりを行っています。また、今年からは新たに大学院を開設し、社会人枠を設けるなど、一人でも多くの方に学べる場を提供していきます。地域との連携という観点では、地元の皆さんからのお誘いで裾野を広げてこられたような、そんなイメージがあります。また、学生が地域と関わっていきけるよう、あじさい祭や人間川七夕まつり、さやま大茶会へも参加しています。足元から人とつながっていくことが、一番の地域貢献だと思います。

市長 狭山市ならではのイベントにも参加していただいているという事です。そこから広がるつながる輪が、「元気な狭山」をつくり上げていくのかもしれない。高橋「いかに地域で」を考える……これが地域貢献の発露ではないでしょうか。毎年10月に行う大学祭「なでしこ祭」は、今年も2日間で約1万1千人の人数があり、この行事が地域に欠かせないものとなるよう、努力していきたいです。大

学の地域貢献はそれぞれ切り口が違っていると思います。我が校は地域に密着した大学を目指したいと考えています。

3 大学の学生も市民として 育みたい狭山市への理解と愛着

市長 それでは、学生の皆さんがまちづくりに参画することに関しては、どのようにお考えですか。

佐藤 まず、大学には市外からも大勢の学生が通学していますから、初めて狭山市にきた学生に、このまちのことを知ってもらいたいと思っています。もちろん、教員など、関係者である我々も狭山市のことを知りたいです……市の歴史やまちのようすをはじめ、自然の豊かさなどは大きな魅力です。それらを知れば、もっと狭山への興味や愛着が湧くのではないかと思います。また、大学側からは市の講座などに人材を派遣することがあるかと思えますが、逆に市側からも人材を派遣してもらい、狭山市を知るための講座を開催したらいかがでしょうか。3大学に通う学生も市民と同じです。学生生活を送るまちとして、好きになってもらいたい、私は願っているのです。

市長 市では、市の職員が講師と

市長 市と大学が同じ目線で相互に理解しながら、一つの目標に向かえる……そんな事業が実現できる時代になったのが嬉しいですね。

なり、行政・行革・環境・福祉・生涯学習など、さまざまなテーマで市民皆さんに学んでもらうための、出前講座というシステムがありますので、こちらをご活用いただくといいかもしれません。学生時代に過ごしたまちは印象に残るでしょう。素晴らしい出会いや学びのある地になるわけですから、積極的に市をPRしていかなければいけませんね。

高橋 今年は狭山市駅西口駅前の再開発が始まる年と聞いていますので、いろいろな可能性を感じます。日常的なことに駅前が開放されれば、大学が協力しながら、団塊の世代、子ども、学生、どんな年代でもつながり合えるような場ができると思います。それによって、恒常的に活気が創り出せるのではないのでしょうか。あとは、学生が自分たちの通うまちに対して、理解を深め、地域を愛する気持ちを育めるよう、大学としても考える必要があると感じています。